

KITA ニュース

KITA
Kitakyushu
International
Techno-cooperative
Association

NO. 39号
July 2013

目次

- 2頁 理事会・評議員会開催、理事長挨拶
- 3頁 H24年度事業報告・H25年度事業計画
- 4頁 海外研修員受け入れ実績・H25年上期研修コース予定
- 5頁 研修コース紹介
- 9頁 海外での活動状況
 - インドネシア、サウジアラビア、ロシア、ベトナム
- 12頁 NEWS&TOPICS
 - 帰国研修員からのレポート紹介
 - 国際親善昼食会開催



帰国研修員からのレポート紹介

平成20年にJICA研修で日本に長期滞在されたヘレンさん(フィリピン)から近況レポートがKITAに寄せられました。研修では「アジア地域、循環型社会の構築」に参加され、公害問題と廃棄物処理等について勉強されました。(左上の写真は当時の研修風景)彼女は現在フィリピン中央政府の投資委員会の上級コンサルタントの一員として投資を促進する役目を担っています。詳細は本文(12頁)をご覧ください。

平成24年度／平成25年度理事会・評議員会開催

1. 平成24年度第2回通常理事会・第1回臨時評議員会開催

(1) 平成24年度第2回通常理事会

①主要議題：平成25年度事業計画並びに収支予算書の承認

②日 時：平成25年**3月19日**(火) 12:30～14:00

③場 所：千草ホテル

(2) 平成24年度第1回臨時評議員会

①主要議題：平成25年度事業計画並びに収支予算書の承認

②日 時：平成25年**3月28日**(木) 12:30～14:00

③場 所：千草ホテル

2. 平成25年度第1回通常理事会・定時評議員会開催

(1) 平成25年度第1回通常理事会

①主要議題：平成24年度事業報告並びに決算報告書の承認

②日 時：平成25年**5月30日**(木) 12:30～14:00

③場 所：千草ホテル

(2) 平成25年度定時評議員会

①主要議題：a.平成24年度事業報告並びに決算報告書の承認
b.評議員、監事、理事の改選

②日 時：平成25年**6月13日**(木) 12:30～14:00

③場 所：千草ホテル



理事長挨拶

— 平成24年度事業報告・決算報告に際し —



昨年は山中教授のノーベル賞受賞という話題が日本中を元気にしてくれました。

また、昨年末の政権交代以降のアベノミクスによる経済界への活力提供もあり、KITAの環境が改善される可能性も期待したいところであります。

平成24年度はKITAにとって公益財団法人に認定された最初の1年間として歴史的な1年となりました。新しい制度に移行するため、小さな管理項目に及ぶまでのマナー作り、制定したばかりの規程類の見直し、そして、管理方式の手直しなどを繰り返しながら、将来への土台作りをしてきました。

一方、KITAの業績はJICA研修事業の実効従事日数が増加したために、平成23年度に続き、平成24年度も予算を上回る収支差額増となりました。公益法人としての収支相償の問題はありますが、KITA経営体質の強化が進むことで、将来に向けた投資を開始したKITAにとって心強い追い風となりました。

平成24年度も平成23年度と同じ7つの基本方針(下記)を活動の指標としてKITAを導いてきましたが、平成24年度はこれらの方針の集大成の1年となり、且つ、次年度以降の事業方針に繋ぐ1年になりました。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| (1) 創立理念の継承と北九州立地の活用 | (2) KITA内事業部門間相互連携の確立 |
| (3) JICAおよび北九州市関連局とKITAの連携強化 | (4) 海外ニーズの調査発掘と事業化 |
| (5) KITA全体の収益改善とKITA内事業部門別採算の確保 | (6) インフラの拡充 |
| (7) 公益法人化＝透明性の確保と諸情報の公開 | |

すなわち、「KITAの財産は何か」と「KITAらしさ、そして、北九州に立地する強みは何か」を念頭に置きながら事業を推進してきたところです。また、基本インフラの整備、多様な人材の確保そして公益法人化を起点とした透明性と情報公開は確実に進展いたしました。

尚、1980～2012年度までの32年間の実績は、参加国146ヶ国、累積研修員7,059人となりました。この財産を今後活かして行きたいと思っております。

引き続きご指導とご支援をお願い致します。

KITA中長期指針

- 1. KITA財産づくり
- 2. 「KITAらしさ」と「北九州立地の強み」追求

平成24年度事業報告

平成23年度に続き平成24年度も下記の7方針に基づいてKITAを運営した。また収支は前年度に続き収益が費用を上回った。

I. H24年度事業方針と実績

- 1. 創立理念の継承と北九州立地の活用
創立理念を定款に盛り込み、北九州地域の幅広い人材活用を進め、また北九州地域各企業との連携も実行に移しつつある。
- 2. KITA内事業部門間相互連携の確立
部門を超えた議論が日常化するなど、従前の状況に比べ明らかな改善が見られた。
- 3. JICAおよび北九州市関係局とKITAの連携強化
トップ会談の適宜実施をはじめ、実行レベルにおいても連携を強化し、相互の窓口機能も整備された。
- 4. 海外ニーズの調査発掘と事業化
(1) 2度のベトナム現地調査を行い、「ベトナム中小企業支援センター(TAC)とKITAと帰国研修員との連携プレイ」可能性の検討を開始した。
(2) コースリーダーと帰国研修員との間のMailによる交流実現をめざし、海外人材データベース開発を計画

し、平成24年度末に完成した。

- 5. KITA全体の収益改善とKITA内事業部門別採算の確保
(1) 年度中間決算オペレーションを実施するとともに下期見通し試算も実施し、収益改善課題の早期把握に道筋をつけた。
(2) 事業部門別採算の整理方式を確立した。
- 6. インフラの拡充
イントラネットの無線化、スケジューリングシステムの導入、ヘルプデスクの外注化などシステムインフラ拡充・整備を終了し、業務支援システム開発を本格化した。
- 7. 公益法人化＝透明性確保と諸情報の公開
規定類問題点の整備、会計書類等の公開内容整備、KITA内のマナー徹底等を終えた。H24年度事業報告がはじめての内閣府への事業報告となる。

II. 収支実績

経常収益：356,543千円 経常費用：333,183千円

平成25年度事業計画

昨年までの7つの基本方針を踏まえつつ、H25年度の新たな基本方針として下記の5方針を設定し、収支計画としては収支がほぼバランスする計画とした。

I. H25年度事業方針

- 1. 海外ニーズ調査発掘と海外ネットワーク構築の一層の推進
KITA財産づくりの最重要課題として下記3点を推進する。
(1) JICA・北九州市関係部局との連携によるニーズ発掘と共有化
(2) 海外ニーズ発掘活動とその集約および計画策定の定例化
(3) 海外研修員ネットワーク構築(海外人材データベース活用)
- 2. 研修事業・技術協力事業の事業力強化・充実
事業力の強化・充実には関係先との連携確立と計画性の確保が必須となる。
(1) KITA内部門間連携のさらなる強化
(2) JICA・北九州市関係部局との連携体制確立
(3) 年次事業計画の策定・実行

3. KITA経常収支の黒字体質確立

KITA発展の前提となる財務体質向上のために下記を推進する。

- (1) KITA収支計画精度向上と中長期見通しの策定
- (2) KITA内事業部門別採算の確保

4. システムインフラ整備3年計画の推進

H24年度～H26年度の3カ年でKITAシステムインフラを整備する。

- (1) 3年計画の確実な推進
- (2) システムインフラの有効活用

5. 公益財団法人運営の定着化・透明性確保と諸情報の公開

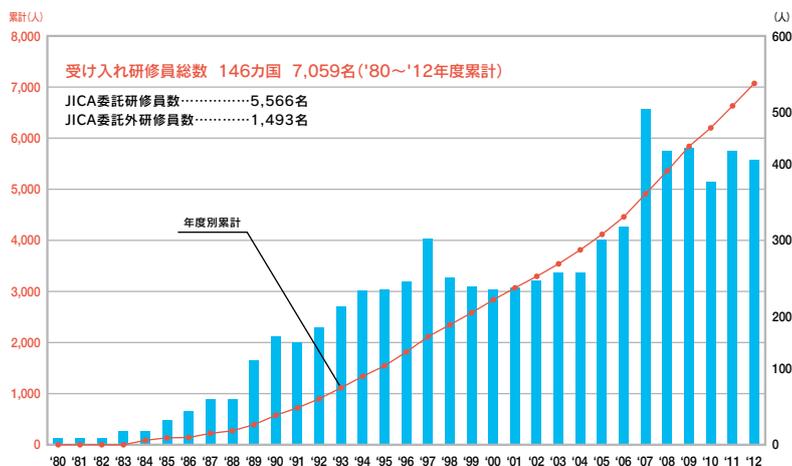
公益財団法人の認定を受けて一年、新制度の本格的な運用を定着させる。

II. 収支計画

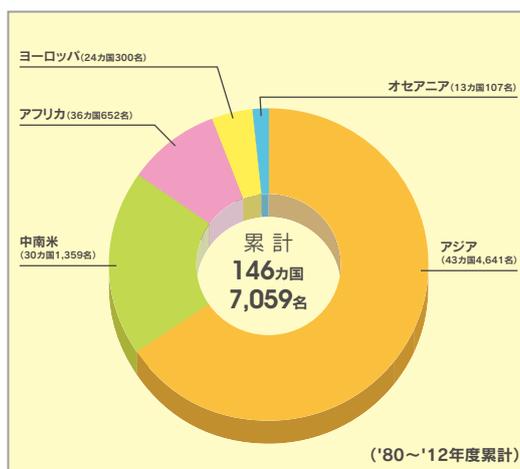
経常収益：347,731千円 経常費用：347,179千円

海外研修員受け入れ実績

●研修員受け入れ実績(2013年3月31日現在)



●地域別研修員受け入れ実績(2013年3月31日現在)



直近6カ月間(2013年7月~12月)中に実施される研修コースの紹介

研修数(28コース) 研修員数(257名)

研修コース凡例

JICA集団研修

JICA地域別研修

JICA国別研修

KITA個別研修

	研修コース名	受託先機関など	KITAコースリーダー/ (アシスタントコースリーダー)	KITA研修期間 (月/日)	研修 人数
◆環境管理	・廃棄物管理技術(A)	JICA	原口	7/7~9/7	9
	・廃棄物管理技術(B)	JICA	指輪	10/20~12/21	10
	・低炭素化のための環境技術	JICA	矢頭	8/28~10/4	11
	・コンポスト事業運営(A)	JICA	指輪	7/24~8/10	10
	・コンポスト事業運営(B)	JICA	伊達	11/6~11/30	8
	・環境教育	JICA	原口	10/30~12/4	15
◆水資源・処理	・産業廃水処理技術(A)	JICA	川崎	6/16~9/7	8
	・水環境行政	JICA	植山	6/23~7/13	8
◆生産技術・設備保全	・中南米地域プロセス工業におけるクリーナープロダクション	JICA	安部/(福森)	8/27~11/22	8
	・中南米地域生産性向上活動普及くボランティア連携>	JICA	河崎	6/5~7/20	8
	・ベトナム生産性向上のための実践的経営管理(1)	JICA	宮本	7/21~8/3	6
	・ベトナム生産性向上のための実践的経営管理(2)	JICA	宮本	9/22~10/7	4
	・インドネシア:自動車部品製造業競争力強化セミナー	経済産業省JICE	北田	11月(1週間)	15
	・ハイフォン市製造業の工場管理能力向上プログラム	JICA	藤本	7/21~8/10	4
◆省・新エネルギー	・インド省エネルギー技術(1)	JICA	大和/(植山)	6/25~8/2	6
	・インド中小企業の省エネルギー技術	JICA	大和	10/9~11/1	15
	・省エネルギー技術と設備診断(A)	JICA	植山/(尾野)	8/11~11/7	12
	・省エネルギー技術と設備診断(B)	JICA	植山	11/6~12/19	8
	・省エネルギー政策立案(B)	JICA	川口	11/10~12/12	16
	・低炭素化社会実現のための発電技術(B)	JICA	藤井	10/23~11/28	14
	・民生部門の省エネ推進(A)	JICA	川口	8/25~10/11	11
◆職業訓練・保健医療・ 中小企業支援・他	・中南米地域:中小企業・地場産業活性化(A)	JICA	三木	7/10~8/10	10
	・アフリカ地域:実践的電気・電子技術者育成	JICA	久良	7/22~9/21	9
	・地域活性化研修	JICA	三木	9/29~10/25	6
	・アフリカ地域:企業家育成・中小企業活性化(B)	JICA	三木	11/13~12/13	10
◆アジアの環境人材育成	・中国昆明市水環境改善研修	中国昆明市	鶴田	11月(2週間)	6
	・自治体職員協力交流事業	北九州市	金子(滋)	6月~12月	4
	・インドネシア:スラバヤ市における分散型排水処理施設整備事業受け入れ研修	JICA	原口	10月~11月(3週間)	6

●なお、研修コースの詳細、年間スケジュールはKITAのホームページ(<http://www.kita.or.jp/>)でもご覧いただけます。

まだまだこれからの下水道事業

「下水道維持管理システムと排水処理技術(B)」コース

コースリーダー 末田 元

水環境汚染対策として、途上国でも下水処理場の建設が始まっています。しかし、出来上がった処理場を維持管理する技術者が少なく、維持管理上の問題が生じてきている面もあります。このような状況を改善しようとするのがこのコースの目的、今回は5回目、約2か月間の研修でした。

参加者は、8か国からの9名。研修員の国の状況は、下水処理場がない、あっても初級・中級処理が主体、下水管が機能的に敷設されていない等まちまちで、多くの研修員が、今後の下水道事業に役立てる知識を吸収したいとの意気込みを持って参加していました。

公害問題から、下水道計画、下水道施設の維持管理、工場排水規制、浄化槽等々に至るまで、幅広い内容を勉強してもらいました。研修員の国々の下水背景が皆異なるため、受けた研修の理解度に差が出るのが予想されました。このため、毎週末の半日を復習の時間にあて、1週間で学んだ内容について質問をだし、研修員にグループ討議をしてもらう方法を取りました。討議の中で自分の不得手だったところをグループの中で他人から学ぼうと、皆さん真剣でした。

優れた日本の下水道技術がすぐには応用できないかも知れませんが、今回学んだ内容が今後の自国への下水道事業発展にきっと役立つであろうと確信し、また願っております。

最後に、この研修が成り立っているのは、研修を受け入れてくれる関係者のお蔭であることをつくづく感じています。ありがとうございました。



G&U技術研究センターにて
(下水管内を流れる水の状況を再現した施設前)



定例の復習風景：
真剣な取り組み

今後の食品衛生向上に期待

「平成24年度食品衛生のための行政能力強化」コース

コースリーダー 中原 幸治

本年1月中旬から2月末日まで6週間にわたりアフリカ(3か国)、オセアニア州(3か国)から9名の研修員を迎え研修を行いました。

食品の安全確保は世界共通の課題です。特に、開発途上の国々では飲食に起因する下痢等の蔓延はまだ深刻な状況にあり、住民の保健水準を改善するためにも食品の安全確保が強く求められている状況です。

今回参加した研修員は各国の食品に係る政府技術者ですが、所属する組織は様々で漁業や農業部門等食糧生産に係る部門や、栄養事業、食品衛生監視部門、研究機関所属等多岐にわたっていました。

加えて、各国の食習慣は独自の長い歴史と特徴を持ち、宗教により口にできる食肉の種類も異なる等、食品に係る産業や産品は日本とは大きな違いを感じさせられるものでした。

そのような食文化と食品産業が異なる中で、研修員は日本の状況を学び、食品に関する基本的なリスク、食品衛生行政や食品企業における衛生管理、検査機関の役割、消費者の活動等広範囲に渡る内容の新しい知識、技術を習

得していきました。本国に戻られ、学んだ知識・経験等を生かし食品衛生の向上につなげていただきたいと期待しています。

これら講義は、産業医科大学をはじめ多くの大学、北九州市・福岡市・東京都などの行政や、食品企業、関連団体等の協力を得て“食品の生産から加工・消費までの食の安全確保”に係るカリキュラムを実施することができました。この紙面をお借りして研修を受け入れていただいた機関、講師の先生方に御礼を申し上げます。



産業医科大学でのアイソトープ
実習



国立水俣病総合研究センター
屋上にて

3R強化を目指して

第2回ベトナム国別「廃棄物管理技術C」コース

コースリーダー 城戸 浩三

第1回の研修員は、国営の都市環境公社が中心でした。今回は、本省からの研修員が中心で技術研修期間は平成25年2月19日～4月19日の2ヶ月間です。

研修の内容は、①日本の環境政策及び廃棄物管理システムの理解、②廃棄物処理の各技術の習得(収集・運搬、中間処理、リサイクル、コンポスト等)、③最終処分場の技術習得、④環境教育・啓発の具体的手法の習得となっています。廃棄物処理技術の時間が一番多く、全体の約4割です。

今回の研修員は、北九州市の廃棄物処理行政(エコタウンや循環型社会の推進)、大木町のメタン発酵バイオガスシステムや志布志市が焼却の代わりにしている3Rの推進により最終処分場の延命策を計る施策に大変興味を持っていました。ベトナムでは現在農業振興策を推進しており、最終製品として肥料を製造できるバイオガスシステムを技術移転したいとの希望で熱心に質問・調査をしていました。

JICAプロジェクトとして、2006～2009年にハノイ市で都市型廃棄物問題解決のため、3Rイニシアティブ活性

化支援(3R-HN)が実施されました。2012～2016年のプロジェクトでは、ハノイ市の3Rを全市的に拡大し、また、モデルの省を選んで3Rのマスタープランを作成し、全国的に拡大するための人材育成を強化することになっています。

このコースが、ベトナムの3R推進の人材育成に大いに貢献できると期待しています。



講師自宅(志布志市)家庭におけるゴミ分別研修後の記念写真



今回人気があった大木町バイオガスシステム施設での研修

研修の成果を自国での展開に期待

ベトナム国別「産業廃水処理技術」コース

コースリーダー 荒川 敏一

平成25年2月24日に来日以来、約2ヶ月の標記研修コースは4月26日に終了し、研修員はそれぞれ自分の職場に戻り、新たな気持ちで研修の成果など関係各所に報告をしています。

このコースは元々「課題別研修」コースとして、20数年間全国ベースで実施していたものを、昨年度よりベトナム国のニーズから国別コースとして独立し、期間も半分に短縮し、廃水処理技術に特化した内容になっています。

コースの主な内容は、水質管理に関する環境行政と廃水処理理論、並びに廃水処理設備の基本計画と設計から構成されています。現場設備の研修をしながら処理技術全般が把握できるように配慮し、短い期間であったが、実習や演習を通じて体験することで有効な知識を身に付けました。

最後は、3班に分かれて課題別のケーススタディで、研修員による相互評価および講師の講評などで、改めて理解を深めることができました。

「ケーススタディでは夜遅くまで勉強した」と満足げに話していたので、きっと帰国後も実務を通して廃水処理

設備の改善計画や新規設備企画に自信をもって取組める技術が身に付いたものと喜んでいきます。



日鉄住金環境(株)で視察研修



北九州市穴生浄水場の逆洗洗浄作業の研修一コマ

EU加盟を目指す南東欧地域研修員の明るい歌声と決意

「南東欧地域クリーナープロダクション(CP) 振興」コース

コースリーダー 小杉 允

このコースは不幸な紛争から立ち上がり、EU加盟を最優先の国家目標として建て直しを図っているアルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、セルビア、マケドニア旧ユーゴスラビアに対しCP導入を支援する目的で設立されました。いずれも経済発展が遅れ、生産性や環境、インフラ整備に大きな問題を抱えています。今回のコースでは従来のCP研修に加えて地域振興の内容を強化しました。各国とも零細な中小企業が多数を占めておりこの力を強くすることが大切と考えられるためです。長崎外国語大のチョウドリ先生に国際的な一村一品運動や3Rを紹介して頂きました。さらに北九州近傍の(株)左尾電機、(株)松本工業、(株)中島ターレットを訪問し、社長から直接経営トップのリーダーシップの在り方につき失敗や成功の中から具体的体験を熱く語って頂きました。研修員も5Sやサークル活動を通して経営と従業員が一体となって活動することに強い関心を示してくれました。すでに国元で研修プログラムが作られようとしています。元々南東欧は東西の文化圏の接点に位置し輝かしい歴史を持つ地域です。人々は好奇心に満ち明るく前向きで

す。研修の最終日、アクションプラン発表会の後、秘かに練習した日本の歌「さくらさくら」を全員で熱唱してくれました。突然のサプライズでしたが感謝の心と決意がよく伝わりました。大いなる成果の歌声が南東欧の空に響き渡ることを期待しています。



長崎外国語大チョウドリ先生と一緒に



研修員全員で「さくらさくら」を歌い終えて

いつもご協力有難うございます!

(株)戸畑ターレット工作所様への感謝

コースリーダー 三木 義男

私がKITAコースリーダーとして最初に担当したコースが、'02年度「持続可能な産業開発TMS-II」ですが、それ以来、研修視察を快く引き受けて頂いています。引き金は、故松本社長が、私とボーイスカウトを通じて青春を共に過ごした親友であったことです。それ以来、現清永社長までお世話になっております。その間、企業も格段と成長しており、現在は、住宅機器、電気・ロボット、自動車産業と事業規模が拡大し、北九州地域での中小企業成長モデルの一つと言っても過言ではありません。

清永社長は、経営方針の一つとして「地域社会貢献」を明白に表明しており、その実践を産学官連携、インターンシップなどで幅広くされておりますが、JICA海外研修もその一環です。その一つが、研修視察に際しては、常に、社長自ら、企業理念、企業戦略・経営計画等を熱のこもったお話をされて、研修員に感動を与えています。中でも、研修員が非常に感銘を受けることは、社員約100名との絆・信頼を築いていく仕組みづくり、社長としてのリーダーシップ、産学官連携による企業中核技術開発及び、5S活動・改善活動の実態を理解できることです。二つ目は、清永社長及び、

池田経営管理部長が、ジョブレポート発表会にもご参加の上、研修員に的確なコメントをくださっていることです。

その感謝に対する僅かなお返しの意味で、私としては、JICA研修状況の写真などを社会貢献活動の一環としてご利用頂くことをお願いしています。また、視察当日を含めて、清永社長との世間話の場を設けていますが、今後とも未永くお付き合いをさせて頂きたいと思っている今日の頃です。



2012年「アフリカ地域 起業家育成・中小零細活性化」の研修コース

様々な研修に社長自ら参加
2011年「中南米地域 中小企業・地場産業活性化」の研修コース

サウジアラビアとの日本企業のビジネス交流の可能性調査を実施

2億人もの人口を抱える中東地域は、一部で紛争の火種はあるものの、その経済成長力の高さから近年世界の注目を集めています。中でも2,800万人を擁するサウジアラビアは同地域の政治・経済・文化・宗教の中心地であり、また豊富な石油資源、オイルマネーを背景として目覚ましい経済発展を遂げている国でもあります。

このたびKITAでは(財)中東協力センターから「サウジアラビアの鉄鋼等金属加工分野における日本企業のビジネス参入の可能性調査」の要請を受け、この2月に電気炉製鋼、圧延、加工・組立て、環境分野について、ペルシャ湾岸のダンマン・ジュベイル、紅海沿岸のジェッダの3都市で調査を行いました。

本調査では、鉄鋼分野において電気炉製鋼工程で発生するスラグやダストの処理、圧延工程での省エネ・省電力、一部環境改善などが、金属加工分野では鉄骨加工の効率化、高級バルブの製造、電力損失の少ないトランスの製造などがビジネス参入チャンスとして明確になりました。また最後に訪れたジェッダではゴミ問題

副理事長 工藤 和也、部長専門員 宮田 利勝

が深刻で、街中でゴミの散乱や産業廃棄物の不法投棄が目につきました。現地新聞でもゴミ問題が指摘されていて、ゴミや廃棄物の収集・処理管理の技術移転が急務と感じられました。

この2月には茂木経産相が、5月には安倍首相が中東地域を相次いで訪問、日本との関係も一段と緊密度を増しております。引き続きKITAはこれら地域でのビジネス交流の促進に努めて参ります。



DRI(直接還元鉄)製造設備(DRIC社、Al Tuwairqiグループ)



棒鋼圧延ライン(ISPC社、Al Tuwairqiグループ)

South Jeddah awash with garbage despite new sanitation contracts



ジェッダでのゴミ問題は深刻(アラブニュース2013.2.10付)

ベトナム国ハイフォン市における製造業工場管理力向上プロジェクトの進展状況

本活動はJICA草の根技術協力事業として、2011年から3年間の予定で活動しています。直近の状況を報告いたします。この事業の実施内容は、1)人材育成プログラム、2)中小企業への技術支援です。

1) ハイフォン市工業職業短期大学(HPIVC)の教師3名とハイフォン市商工局職員1名を北九州市に招聘し「生産マネージメント」の研修(3週間)を行いました。その結果は早速、HPIVCの教育カリキュラムに正式採用され、電気科、機械科の学生に対し、必須科目として60コマの講義が開始されました。また、地元企業の技術者向けの講義も開始されました。更に、5Sを実習場に見事に導入し、5Sの最後の項目「SITSUKE」まで学生に指導していることが窺えました。本学が地元企業に5Sを普及する中核機関になると信じています。

2) HPIVCに相談窓口を設置し、中小企業42社からの相談を受け付けました。その内の数社に対し、具体的な課題解決プログラムを提案しました。また、5S

技術協力部長 藤本 研一

の導入の手助けも行いました。

ベトナム国内の景気低迷の影響から、地元中小企業では「受注拡大」が急務です。特に、日系企業からの受注を拡大したい希望を強く持っています。3月、ハイフォン市の日系企業を訪問し、ベトナム企業に対し何が取引疎外要因になっているかヒアリングしました。最大の課題は品質問題であることが判明しました。今後、日系企業との橋渡しに努力したいと考えています。



HPIVCでの「生産マネージメント」講義風景(北九州で研修した教師による講義)



HPIVC 実習場の5S 実施状況

北九州ーベトナム(ハノイ・ハイフォン)経済交流事業を支援

KITAでは北九州市とJETRO(日本貿易振興機構)が中心となって実施している「北九州地域ーベトナム・ハノイ、ハイフォン地域間交流支援(RIT)事業」の調査、アドバイス、コーディネート業務を担っております。

平成24年度は7月にベトナムでの新たなパートナー企業の発掘を、11月に訪越企業ミッションに同行してハノイ・ハイフォン両市での技術セミナー・商談会を行いました。さらにこの2月にはベトナムの優望企業2社(LILAMA69-3社、CNC-VINA社)を北九州市に招聘して、造船、鉄構造物製造、秤量器・計測器製造、機械製造、搬送設備・自動設備製造、鉄鋼関連商社など北九州企業11社との商談会を開催しました。

これらの商談会の中から「バイオ・トイレ」のベトナムでの製造・販売共同事業化と世界遺産ハロン湾を抱えるクワンニン省へのデモ機投入協議、「製鉄所向け鉄構造物」の委託製造引き合い、「球体駆動モジュール」の販売などの新たなビジネスモデルが動き始めました。また当年度には「ベトナム鉄鋼協会」や「ハイフォン機

技術協力部 宮田 利勝、齋藤 導宣

械協会」など主要業界団体との交流も実現、今後のベトナムビジネスの可能性が大きく広がりました。

平成25年度は本RIT事業の最終年度です。いよいよベトナムでは大規模高炉一貫製鉄所の建設が始まりました。今、北九州企業のベトナムへの関心度は一段と高まっており、新しいビジネスの創出に期待が膨らんでいます。KITAでは全力でこの期待に応えて参ります。



東洋精工(株)との商談会風景



リーフ(株)との商談会風景

ロシア・ネフテマシ社との特殊バルブ製造の協業に関する支援

ネフテマシ社はポンプの製造を主体にビジネス展開を図っているロシアの中堅企業であり、その主力工場はモスクワの南東800kmボルガ川沿岸のサラトフ市にあります。

一方、極東製作所は特殊な製鉄用および地熱発電用高性能バルブを製造する北九州の中堅企業です。極東製作所は最近の原発事故を契機に自然エネルギー開発が注目される中で地熱発電用特殊バルブを開発し世界中に販売する計画を立ててきました。

しかし製造拠点が日本だけにしかないことは全世界へ拡販することの大きなネックになっています。そこでこのネックを解消するためにネフテマシ社の有する総合的な機械加工技術を活用することを検討してきました。

今回の調査は2013年3月2～7日に行われ、ネフテマシ社とのビジネス協力(協業)が可能かどうかを検証しました。工場を視察した結果、ネフテマシ社の技術力は高くバルブ製作能力は十分にあると判断されたの

副理事長 工藤 和也

で、ネフテマシ幹部との協議の結果両社は協業することに合意し秘密保持契約を締結しました。

それによって、極東製作所は設計図をネフテマシ社へ提供することにより、早急にトライアル品を作成することを決定して帰国しました。今回のミーティングには会社の経営トップが参加したことにより意思決定が迅速に行われた好例であり、良い形で協業が成功するように支援して行きたいと思えます。



品質保証機器の説明



ポンプ製作現場

インドネシア・スラバヤ市における分散型排水処理施設整備推進事業について

環境局環境国際戦略室 運営支援担当課長 緒方 信一

KITAが取り組んでいる、インドネシア・スラバヤ市におけるJICA草の根協力事業の活動について報告します。2年次にあたる本年度は、4回にわたる専門家の派遣と、スラバヤ市から技術者を招聘しての本邦研修を行いました。

境への取組みを見学者に有料で紹介・解説する大木町の活動には特に関心が深く、真剣な視察となりました。南国の方には厳しすぎる寒さの中での研修でしたが、実りある研修となったようです。

まず、専門家派遣では、現地踏査、協議を重ね、コミュニティでの生活排水処理施設の基本設計を完成させました。そして、4回目の派遣時にモデルコミュニティであるスラバヤ市南部に位置するジャンバンガン地区(市内でも特に環境活動に熱心な地区)で現地セミナーを開催しました。セミナーには地区の自治会の方々や主婦、行政関係者に混じって医療学部の大学生たちも参加し、北九州市の水環境保全の取組みの紹介、コミュニティ生活排水処理施設についての説明に引き続き、活発な意見交換が行われ、たいへん有意義なセミナーとなりました。



ジャンバンガン地区にて(セミナーを終えて)

11月に行った本邦研修では、5名の若手技術者が3週間にわたり、北九州市の公害克服の歴史、水環境保全や排水処理技術に関する講義を受講し、北九州市や近郊の先進的な環境への取組みの視察を行いました。中でも、大荒れの海を渡船で藍島と馬島に渡り、稼働中の生活排水処理施設を目の当たりにしたことは印象深かったようです。また、自らのまちの環



研修視察中

KITA人事異動(2013年1月1日~6月30日)

新任

コースリーダー 指輪 勤 (2013年2月1日付)
 技術協力スタッフ 河島 三晃 (2013年5月1日付)
 コースリーダー 寺田 雄一 (2013年6月1日付)

退任

KITA環境協力センター課長(北九州市へ帰任) 永石 昌也 (2013年3月31日付)
 KITA環境協力センター特命課長 飯塚 誠 (2013年3月31日付)
 コースリーダー 石川 隆 (2013年3月31日付)
 コースリーダー 米澤 昌 (2013年3月31日付)
 事務局スタッフ 脇阪 信治 (2013年3月31日付)
 コースリーダー 川合 玄夫 (2013年5月31日付)

セミナーご案内

北九州メンテナンス技術協会 (KME) セミナーご案内

KME事務局 関 義明

KITA(公益財団法人 北九州国際技術協力協会)に事務所を置いている北九州メンテナンス技術研究会(以下、KME)は、地元各社のメンテナンス技術を維持向上させるための研究会・研修活動と併せメンテナンス分野における国際技術協力にたずさわる技術者の相互研鑽・交流を促進し、以て地域の活性化に寄与することを目的とした活動を行っています。

平成25年度7月以降の開催セミナーは下記の予定です。

る国際技術協力にたずさわる技術者の相互研鑽・交流を促進し、以て地域の活性化に寄与することを目的とした活動を行っています。

講座名	講師	実施時期(日数)
1)溶接技術	九州工大 名誉教授 加藤 光昭氏 九州工大大学院 客員教授 安西 敏雄氏	7月24日(1日) 7月25日(1日)
2)トライボロシー(摩擦・摩耗・潤滑)	早稲田大学大学院 教授 松本 将氏	8月29、30日(2日)
3)モーター・インバーター制御技術	(株)安川電機(モーター制御) (インバーター制御) 未定 未定	9月下旬(0.5日) 9月下旬(1日)
4)設備診断技術(電気設備編)	日本診断工学研究所 代表研究者 豊田 利夫氏	10月中旬(2日)
5)初歩の油圧技術	ボッシュ・レックスロス(株) 営業統括部 課長 善如寺 誠氏	11月上旬(2日)
6)設備診断技術(機械設備編)	日本診断工学研究所 代表研究者 豊田 利夫氏	平成26年1月下旬(2日)

◆募集案内は開催時期の1.5ヶ月前に行います。上記講座の受講希望者は奮ってご参加下さい。参加希望者は下記へ連絡をお願いします。
KME事務局 関 義明 Tel 093-662-7174 Fax 093-662-7177

なお、北九州メンテナンス技術研究会(KME)の情報はKITAホームページ(<http://www.kita.or.jp>)でもご覧になれます。

受賞!! グループ優秀賞

北九州市環境首都検定試験(グループ表彰)

研修部 吉本 憲司

環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げるきっかけづくりを目的に平成20年度から「北九州市環境首都検定」が実施されています。平成24年度の検定試験にKITA研修部の有志6名が試験に臨み企業職場部門(一般編)でグループ優秀賞を受賞しました。

平成25年3月20日に北九州市環境ミュージアム多目的ホールで授賞式が行われ、KITA研修部の伊達専門部長に賞状が授与されました。今回の首都検定試験グループとしてJICA国際研修で活躍されているコースリーダー

と常勤組の6名が受検しました。

グループ優秀賞の条件は平均点が75点以上でしたが、我々のグループの平均点は78.2点で見事クリアし優秀賞を授与されました。

◆平成24年度実施結果(北九州市環境局環境学習課の発表資料より)

平成24年度	一般編の試験結果比較	
	一般編受験者	KITA受験者
受験者数	1,296人	6人
平均年齢	36.0歳	??(全員66歳以上)
平均点	68.3点	78.2点

当環境首都検定には①ジュニア編 ②一般編 ③上級編の3段階があります。



まだまだ若いもんには負けられません!!
前列左より、川合、上野、川崎
後列左より、伊達、末田、吉本



表彰式の記念撮影

帰国研修員からのレポート紹介

JICAとKITAには心から敬意を表します

コースリーダー 川合 玄夫



日本で研修中のヘレンさん

今回、寄稿して下さったヘレンさんは、フィリピン中央政府の投資委員会の上級コンサルタントの一人として、投資家が必要とする様々な資料を提供し、投資を促進する役目を担っています。ヘレンさんはJICA研修では平成20年度の「アジア地域 循環型社会の構築」に参加しました。彼女は公害問題と廃棄物の処理に造詣が深く、研修で学習したことを何時も思い出し、投資に関するコンサルタント業務に生かしているとの事です。ヘレンさんの母国での活躍状況を知り、日本での研修が無駄ではなかったと私は自負しています。

以下はヘレンさんから寄稿されたレポートの内容です。

JICAとKITAには心から敬意を表します。

平成20年に研修コース「アジア地域 循環型社会の構築」に参加のため日本を訪問する機会に恵まれ大変光栄に思っています。

当研修コースで学習ならびに経験したことは、私の責任範囲における3R (Reduce, Reuse, Recycle)の推進と環境保全について案内役になりました。

私はいつも日本の公害問題を思い起こしています。日本の公害問題は試練であり、間違いであった事実を知ることは発展途上国にとって有用なもの信じています。従って、我々は間違いを二度と繰り返さないためのヒント或いは指標を学ぶことが出来ました。更に、我々は、公害の予防対策にかかる費用は公害が発生してから補償よりも格安であることも忘れてはいけないと思います。

アクションプランの実行については、私は同僚と共同して、廃棄物再利用設備、種類別に分類された衛生的な埋め立て、情報の共有、中でも最善策の提唱などに関して顧客である投資家に対し、助言と調整をより強力に進めます。更に、3Rの推進、実行について継続的な共同作業があります。

JICAとKITAの皆様には重ねてお礼を申し上げます。

ヘレン キャスコ



各種セミナーで活躍中のヘレンさん

KITA国際親善昼食会開催 ～国際ソロプチミスト北九州-西の皆様と共に～

事務課長 豊田 めぐみ

平成25年2月2日(土)、国際ソロプチミスト北九州-西共催による「国際親善昼食会」を開催し、海外研修員22名(3コース)を招待しました。漆塗りの重箱に色彩豊かな食材がきれいに盛りつけられた純日本式の繊細かつ豪華な昼食に研修員は大喜び。また、小倉長浜東ノ町内有志による小倉祇園太鼓の実演後、研修員にも太鼓の両面打ちに加わってもらい大いに盛り上がりました。更に、ソロプチミストの皆様のご指導による折り紙体験やビンゴゲームを楽しみ、研修員にとっては思い出深いひとときとなりました。ソロプチミスト北九州-西の皆様にはご寄付のみならずビンゴゲーム用の景品もご提供頂き、心より感謝申し上げます。



小倉祇園太鼓の両面打ちを楽しむ研修員達

国際ソロプチミスト北九州-西の皆様と共に
～折り紙作品を持って～KITA
ニュース

No.39(第39号)

2013年7月1日発行
(1月・7月発行)

発行：公益財団法人北九州国際技術協力協会

編集発行人：事務局長 藤原 直捷

〒805-0062 北九州市八幡東区平野一丁目1番1号 国際村交流センター4階

TEL:093-662-7171 FAX:093-662-7177 E-mail:info@kita.or.jp

●右記Web site(KITAホームページ)には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧下さい。

KITA

検索

カチッ!